

第2章 生活行動（余暇活動）

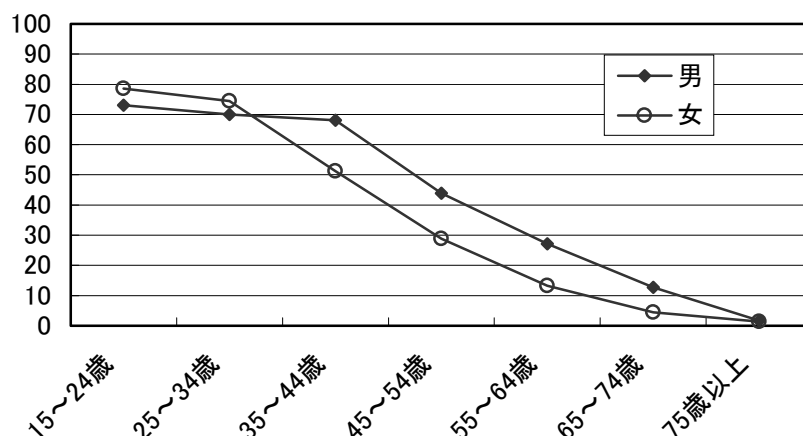
1 インターネット

(1) 男性の約5割、女性の約4割の人が「インターネット」を利用

過去1年間(平成12年10月20日～13年10月19日)に福岡県で「インターネット」を利用した人(10歳以上)は1,940千人で、10歳以上人口に占める割合(利用者率)は43.7%となっている。利用者率を男女別にみると、男性は48.3%(利用者数1,014千人)、女性は39.6%(927千人)となっており、男性が女性より8.7ポイント高くなっている。

「インターネット」の利用者率を年齢階級別(15歳以上)にみると、男女とも15～24歳までが最も高くなっている。また、34歳までは、女性の方が高くなっているが、35歳以上では、男性の方が高くなっている。(図1-1)

(%) 図1-1 男女、年齢階級別「インターネット」の利用者率

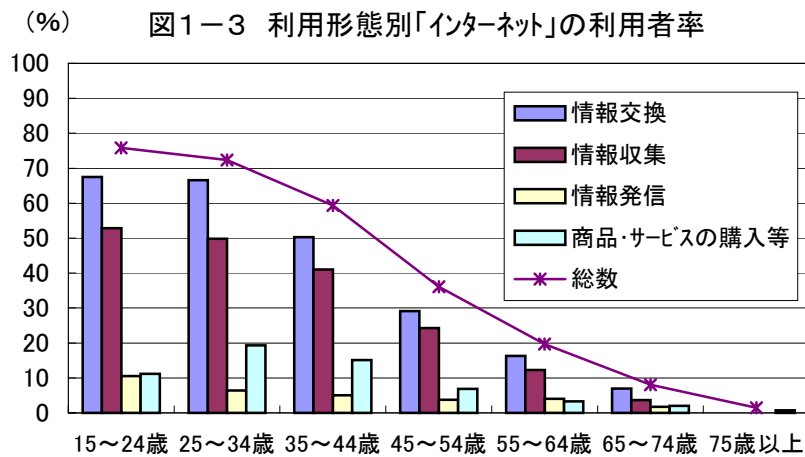
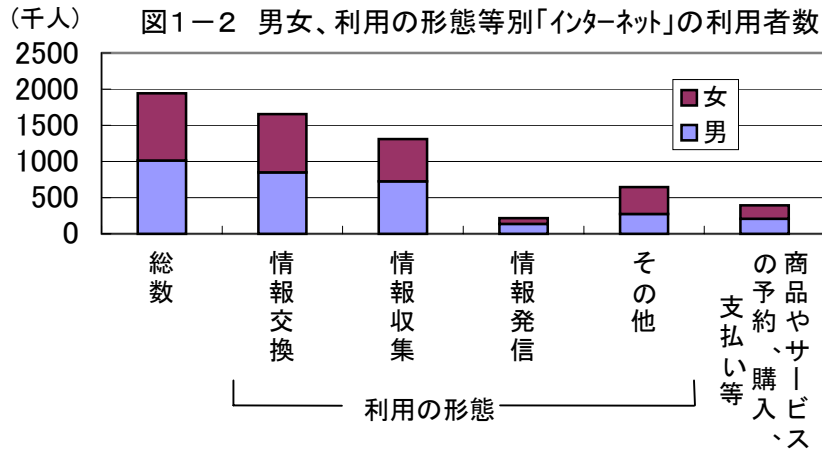


(2) 約4割の人が、「情報交換」での利用、約1割の人が「商品やサービスの予約、購入、支払い等」の利用

「インターネット」の利用者を利用の形態別にみると、電子メールなどの「情報交換」に利用した人(10歳以上)が1,657千人(利用者率37.4%)、ホームページの閲覧などの「情報収集」に利用した人が1,311千人(29.6%)、ホームページの開設などの「情報発信」に利用した人が216千人(4.9%)などとなっている。(図1-2)

これを年齢階級別(15歳以上)にみると、「情報交換」(67.5%)、「情報収集」(52.8%)、「情報発信」(10.5%)とも15～24歳が最も高くなっている。また「商品やサービスの予約、購入、支払い等」では、25～34歳が19.3%で最も高くなっている。

(図1-3)



- (3) 1年間の「平均利用日数」では、「情報交換」が約168日と最も高い
 1年間の「平均利用日数」を利用の形態別にみると、「情報交換」が168.3日と最も多くなっており、次いで「情報収集」(105.0日)、「情報発信」(78.6日)となっている。
 なお、「商品やサービスの予約、購入、支払い等」の利用は19.2日となっている。

2 ボランティア活動

- (1) 1年間に「ボランティア活動」を行った人は1,353千人、行動者率は30.5%
 過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った人は1,353千人で、10歳以上

人口に占める割合(行動者率)は30.5%となっている。行動者率を平成8年と比較すると3.5ポイント上昇している。

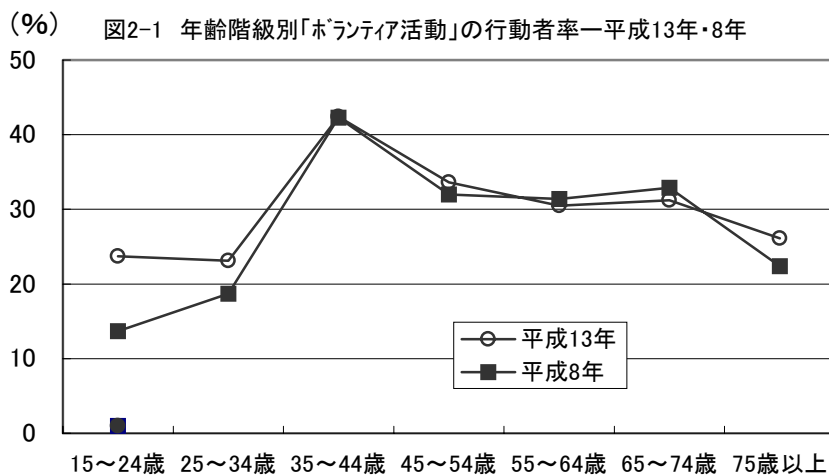
行動者率を男女別にみると、男性は28.2%(行動者数590千人)、女性は32.6%(763千人)で、女性が高くなっている。これを平成8年と比較すると、男性は3.1ポイント、女性は2.7ポイント上昇している。

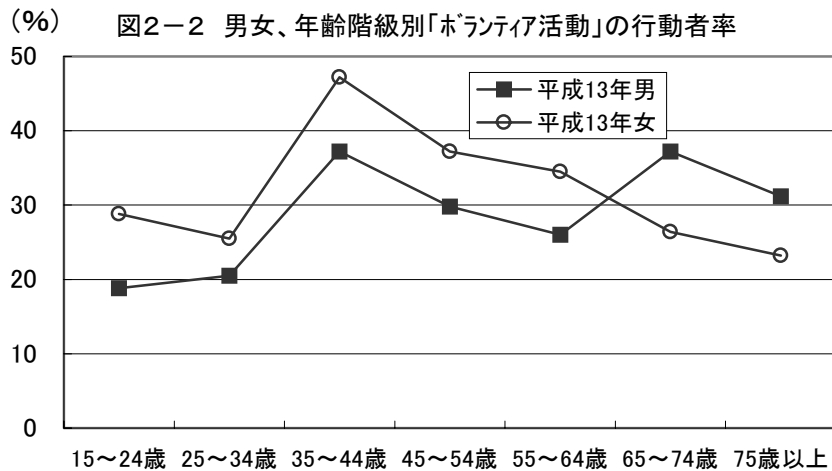
(2) 35～44歳で最も高い「ボランティア活動」の行動者率

「ボランティア活動」の行動者率を年齢階級別にみると、35歳～44歳までが42.4%と最も高く、25～34歳までが23.1%と最も低い。

平成8年と比較すると、55～74歳以外の階級で平成13年が高くなっており、特に15～24歳で大幅に上昇している。(図2-1)

行動者率を男女別にみると、女性の35～44歳(47.2%)で高くなっており、15～64歳まで女性が男性より高くなっている。(図2-2)



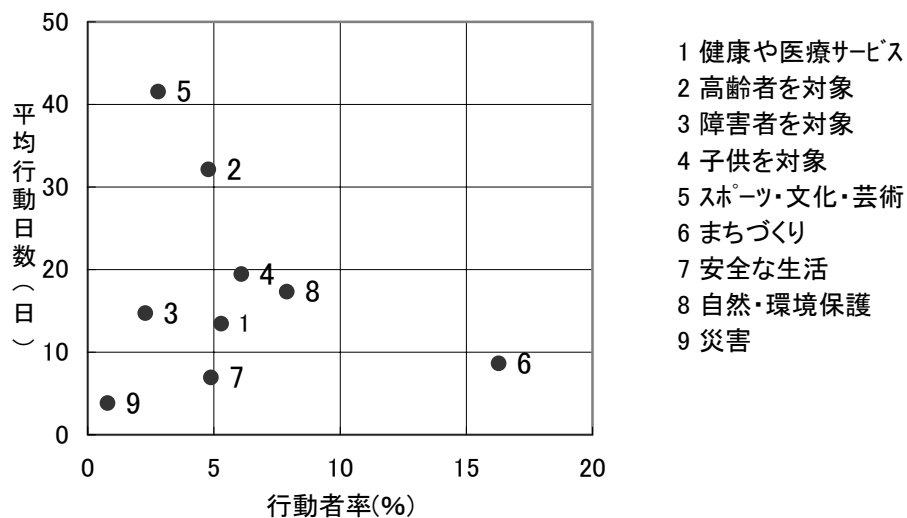


(3) 行動者率が最も高いのは「まちづくりのための活動」

「ボランティア活動」を行った人を活動の種類別にみると「まちづくりのための活動」が724千人(行動者率16.3%)と最も高く、次いで「自然や環境を守るための活動」が351千人(7.9%)、「子供を対象とした活動」が269千人(6.1%)、「健康や医療サービスに関係した活動」が235千人(5.3%)となっている。

また、1年間の平均行動日数を「ボランティア活動」の種類別にみると、「スポーツ・文化・芸術に関係した活動」が41.5日と最も多く、次いで、「高齢者を対象とした活動」が32.1日、「子供を対象とした活動」が19.4日、「自然や環境を守るための活動」が17.3日となっている。(図2-3)

図2-3 「ボランティア活動」の種類別行動者率・平均行動日数



ボランティア活動の内容例示

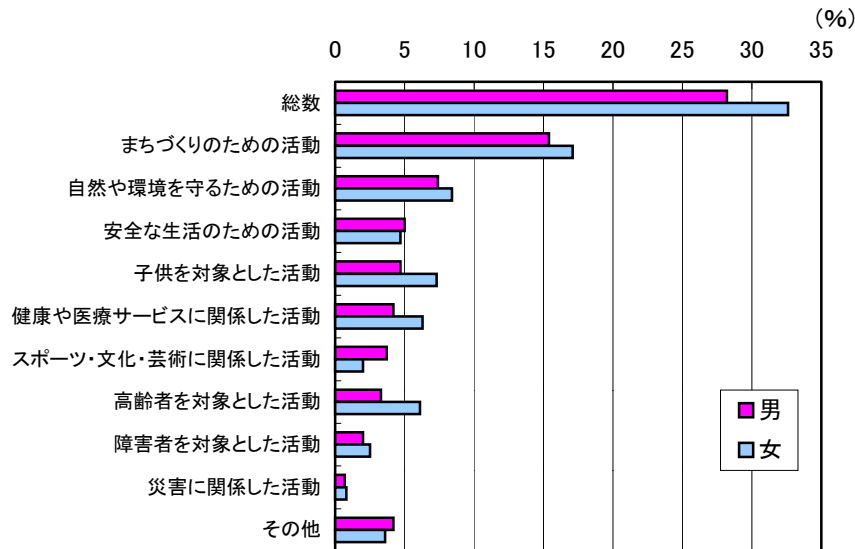
- 1 健康や医療サービス：献血やその呼びかけなど
- 2 高齢者を対象：レクリエーションの相手など
- 3 障害者を対象：朗読、手話などの奉仕など
- 4 子供を対象：スポーツ教室における指導など
- 5 スポーツ・文化・芸術：スポーツ教室における指導など
- 6 まちづくり：道路・公園の清掃など
- 7 安全な生活：「火の用心」の巡回など
- 8 自然・環境保護：海岸美化活動など
- 9 災害：災害後の被災者への救援など

- (4) 平均行動日数が多いのは、男性は「スポーツ・文化・芸術に関係した活動」、女性は「高齢者を対象とした活動」

「ボランティア活動」の行動者率を男女別にみると、男女とも「まちづくりのための活動」が最も高く、次いで、「自然や環境を守るための活動」が高くなっているが、以下、男性は「安全な生活のための活動」、「子供を対象とした活動」の順、女性は「子供を対象とした活動」、「健康や医療サービスに関係した活動」の順となっている。また、男性と女性の行動者率の差が大きいのをみると、「高齢者を対象とした活動」（女性が2.8ポイント高い）が最も大きく、次いで「子供を対象とした活動」（女性が2.6ポイント高い）、「健康や医療サービスに関係した活動」（女性が2.1ポイント高い）の順となっている。（図2-4）

また、平均行動日数を男女別にみると、男性は「スポーツ・文化・芸術に関係した活動」が54.1日、女性は「高齢者を対象とした活動」が38.0日と、最も多くなっている。

図2-4 男女、「ボランティア活動」の種類別行動者率



(5) 「子供を対象とした活動」の行動者率は35～44歳の女性が際だって高い

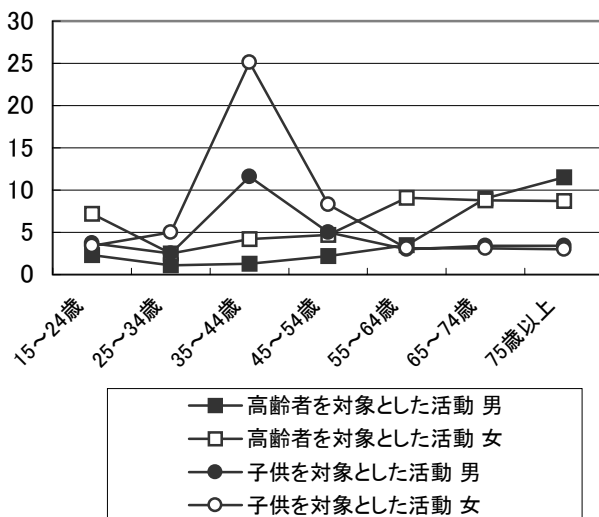
「ボランティア活動」の行動者率が高い種類を年齢階級別にみると、「まちづくりのための活動」、「自然や環境を守るための活動」は、男性はおおむね年齢が高くなるに従って高くなり、女性は35～44歳が高い。

また、男性と女性の行動者率の差が大きい種類を年齢階級別にみると、「高齢者を対象とした活動」では男性は、65歳以上で高く、女性は15～24歳と55歳以上で高くなっている。「子供を対象とした活動」では男女とも35～44歳が高く、特に女性が高い。

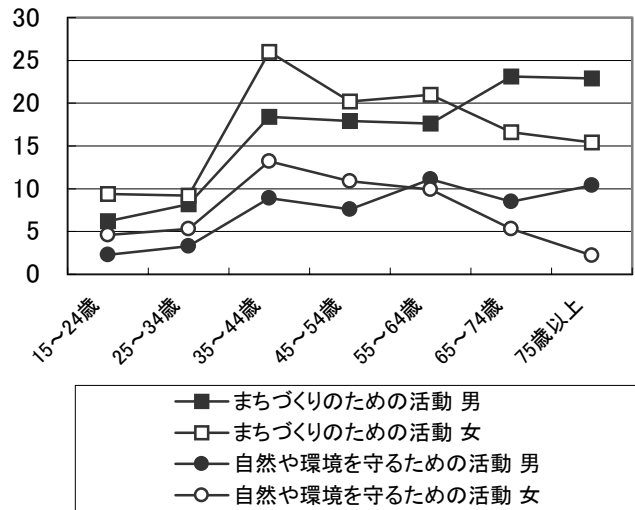
(図2 5)

図2 5 年齢階級、「ボランティア活動」の種類別行動者率

(%) 高齢者を対象とした活動・子供を対象とした活動



(%) まちづくりのための活動・自然や環境を守るための活動



3 旅行・行楽

(1) 1年間に「旅行・行楽」を行った人は3,626千人、行動者率は81.7%

過去1年間に何らかの「旅行・行楽」を行った人は3,626千人で、10歳以上に占める割合(行動者率)は81.7%と、多くの人が日常の生活圏を離れて「旅行・行楽」に出かけている。行動者率を平成8年と比較すると0.3ポイント低下している。

行動者率を男女別にみると、男性は80.7%(行動者数1,693千人)、女性は82.7%(1,933千人)で、女性がやや高くなっている。これを平成8年と比較すると、男性は0.6ポイント減少し、女性は0.1ポイント増加している。(表3-1)

表3-1 「旅行・行楽」の種類別行動者数・行動者率(10歳以上) (千人、%)

	総数		男		女	
	行動者数	行動者率	行動者数	行動者率	行動者数	行動者率
総数	3626	81.7 (-0.3)	1693	80.7 (-0.6)	1933	82.7 (0.1)
行楽(日帰り)	2999	67.6 (2.1)	1358	64.7 (1.9)	1642	70.2 (2.3)
旅行(1泊2日以上)	3038	68.5 (-1.3)	1446	69.0 (-1.3)	1592	68.0 (-1.4)
国内旅行	2955	66.6 (-1.5)	1410	67.2 (-1.3)	1545	66.1 (-1.7)
観光旅行	2389	53.9 (-0.3)	1124	53.6 (0.4)	1265	54.1 (-1.1)
帰省・訪問等の旅行	1262	28.5 (-0.3)	578	27.6 (-1.2)	684	29.3 (0.4)
業務出張・研修・その他	715	16.1 (-0.8)	499	23.8 (-1.3)	216	9.2 (0.3)
海外旅行	543	12.2 (0.5)	267	12.7 (0.3)	276	11.8 (0.7)
観光旅行	471	10.6 (0.4)	211	10.1 (-0.2)	259	11.1 (0.9)
業務出張・研修・その他	126	2.8 (0.2)	96	4.6 (0.9)	30	1.3 (-0.3)

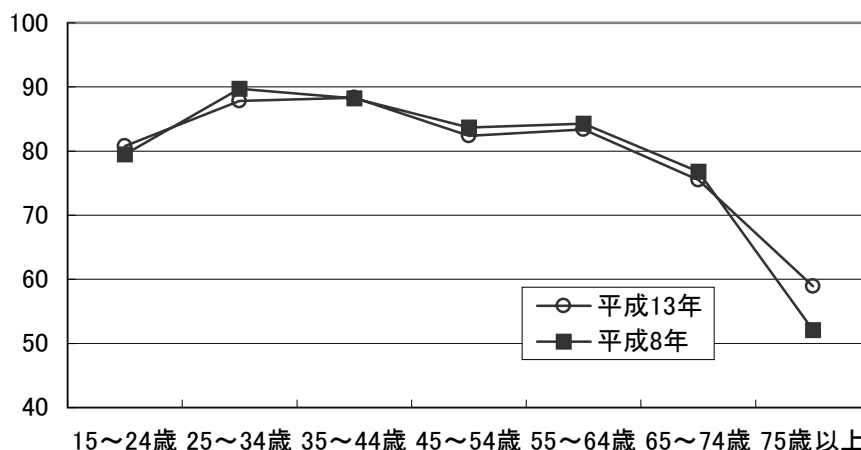
()内は平成8年との増減

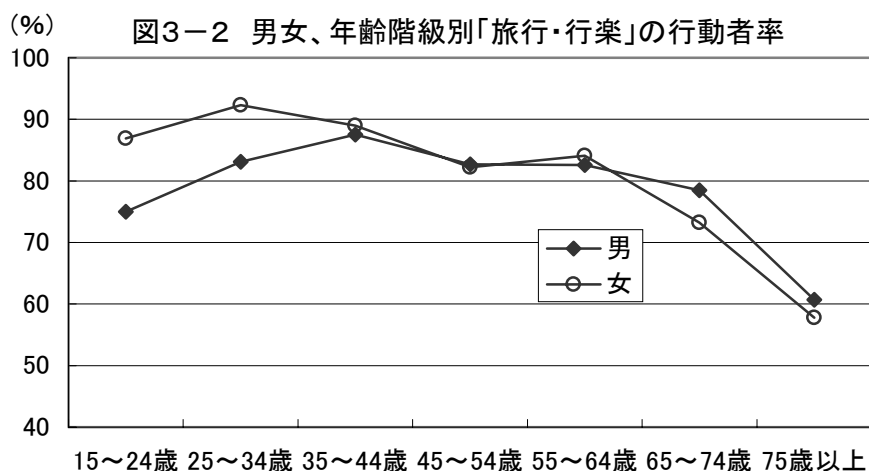
(2) 女性の25~34歳の行動者率が高い

「旅行・行楽」の行動者率を年齢階級別にみると、25~44歳が高く、45~54歳で減少し、55~64歳で微かに上昇し、以後年齢が高くなるに従って低下している。これを平成8年と比較すると、15~24歳、35~44歳、75歳以上では高くなっているが、それ以外では低くなっている。(図3-1)

また、男女別にみると、女性は25~34歳が高く、一方、男性は35~44歳が高く、以後年齢が高くなるに従って低くなっている。(図3-2)

(%) 図3-1 年齢階級別「旅行・行楽」の行動者率—平成8年、13年





(3) 1泊2日以上の「旅行」の行動者率は7割近く

「旅行・行楽」の行動者率を「行楽」(日帰り)と「旅行」(1泊2日以上)に分けてみると、「行楽」は67.6%(行動者数 2,999 千人)、「旅行」は68.5%(3,038 千人)と「旅行」が高く、7割近くの人が「旅行」している。これを平成8年と比較すると、「行楽」は2.1ポイント増加し、「旅行」は1.3ポイント低下している。(表3 1)

(4) 「行楽」の行動者率は、すべての年齢層で女性が男性より高い

「旅行」と「行楽」の行動者率を男女別にみると、「行楽」は男性が64.7%、女性が70.2%、「旅行」は男性が69%、女性が68%となっており、「旅行」は男性の方が高く、「行楽」は女性の方が高くなっている。

ただし、「旅行」を種類別にみると、男性が女性より高いのは「業務出張・研修・その他」であり、「観光旅行」と「帰省・訪問等の旅行」では、女性が男性より高くなっている。(図3 3)

これを年齢階級別にみると、「行楽」では、すべての年齢階級で女性の方が高くなっている。一方、「旅行」では、15~34歳、55~64歳では女性が高くなっているが、それ以外では、男性が高くなっている。(図3 4)

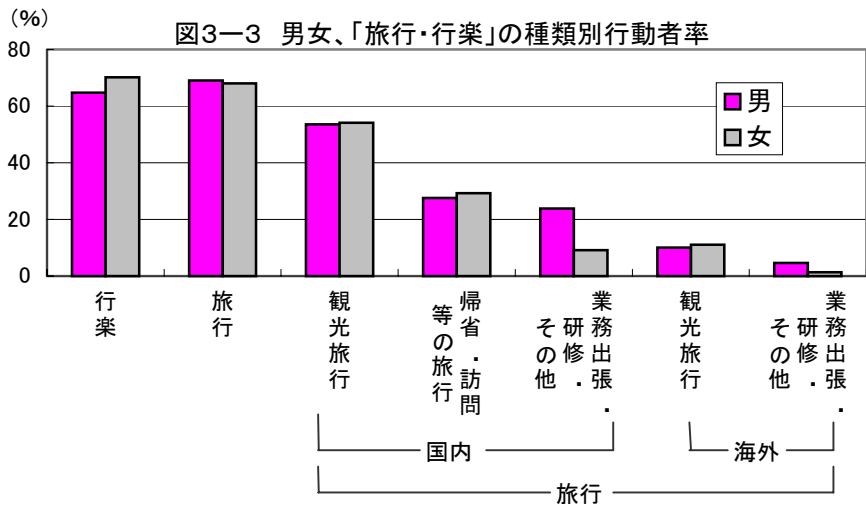
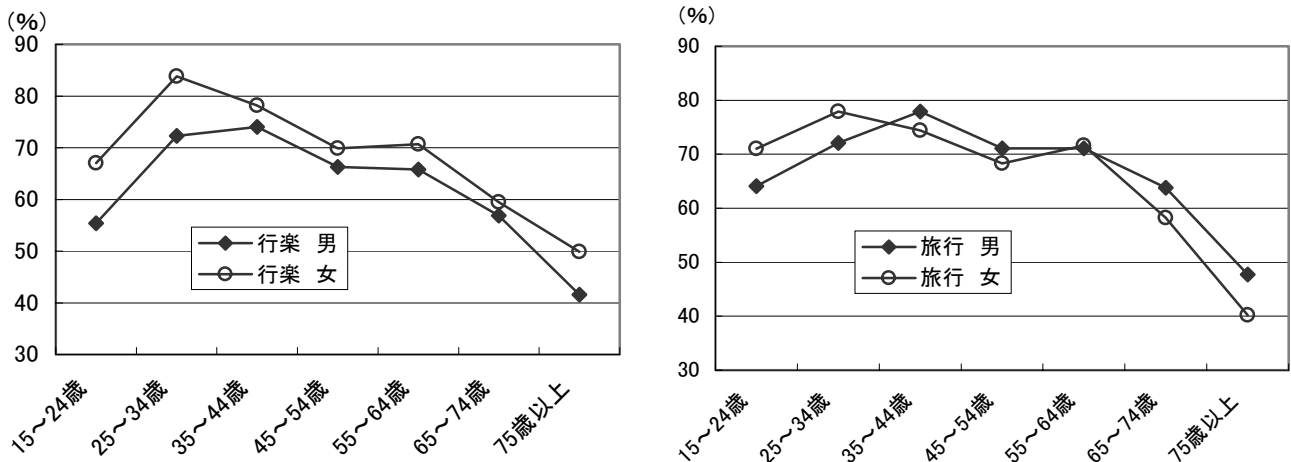


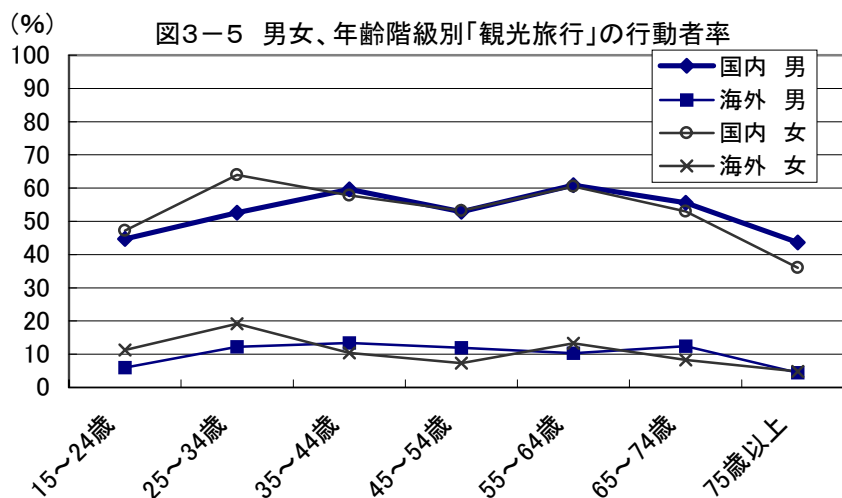
図3-4 男女、年齢階級別「旅行・行楽」の種類別行動者率



(5) 海外観光旅行は、25~34歳の女性の行動者率が高い

「旅行」の行動者率をその種類別にみると、国内の「観光旅行」は男性が53.6%、女性が54.1%、海外の「観光旅行」は男性が10.1%、女性が11.1%と、いずれも女性が男性より高くなっている。

これを年齢階級別にみると、国内の「観光旅行」では、男性は55~64歳、女性は25~34歳が最も高くなっている。他方、海外の「観光旅行」では、男性は35~44歳が最も高く、女性は25~34歳が最も高くなっている。(図3-5)



4 学習・研究

- (1) 1年間に「学習・研究」を行った人は1,585千人、行動者率は35.7%

過去1年間になんらかの「学習・研究」を行った人は1,585千人で、10歳以上人口に占める割合(行動者率)は35.7%となっている。行動者率を平成8年と比較すると、5.1ポイント上昇している。

行動者率を男女別にみると、男性は35.0%(行動者数735千人)、女性は36.3%(850千人)で女性が1.3ポイント高い。これを平成8年と比較すると、男女とも5.1ポイント上昇している。

- (2) 若年層で高い「学習・研究」の行動者率

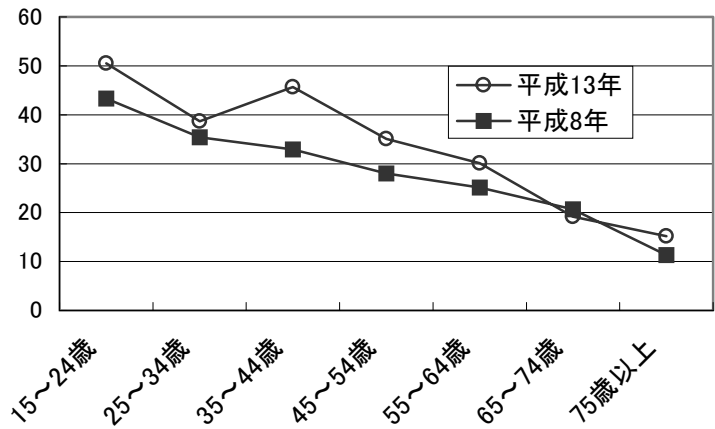
「学習・研究」の行動者率を年齢階級別にみると、15~24歳が最も高く、25~34歳で大きく減少し、35~44歳で再び高くなり、以後年齢が高くなるに従って低下している。

これを平成8年と比較すると、65~74歳以外のすべての年齢階級で上昇している。

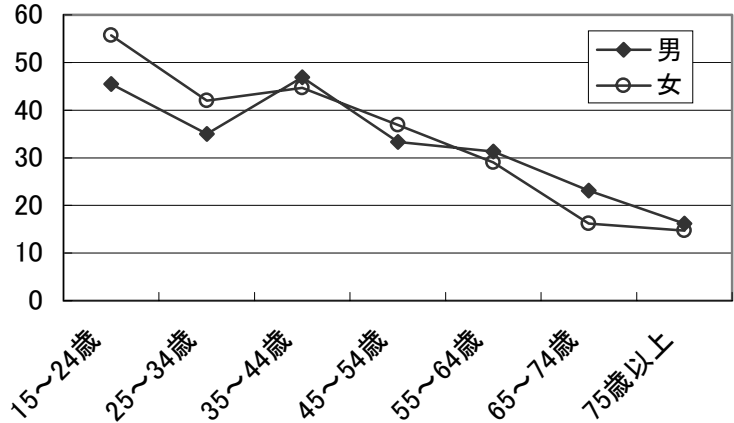
(図4-1)

また、男女別にみると、15~34歳、45~54歳は女性が高く、35~44歳、55歳以上は男性が高い。(図4-2)

(%) 図4-1 年齢階級別「学習・研究」の行動者率—平成8年、13年



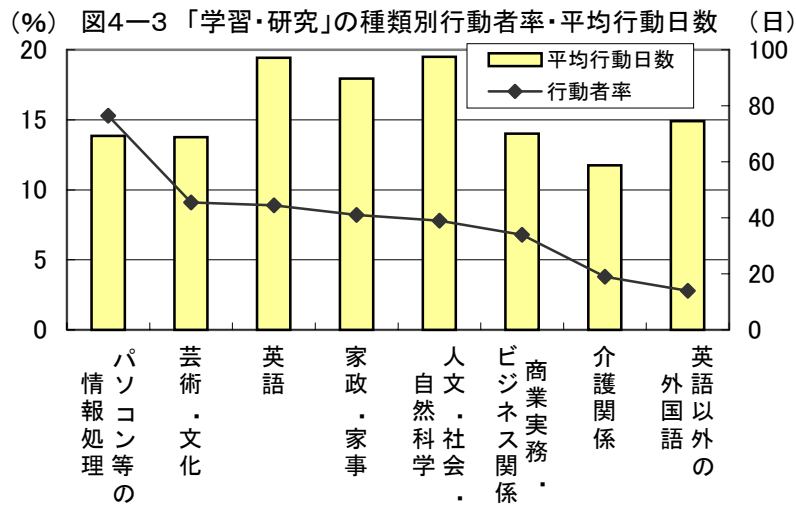
(%) 図4-2 男女、年齢階級別「学習・研究」の行動者率



(3) 平均行動日数が多い「人文・社会・自然科学」、「英語」

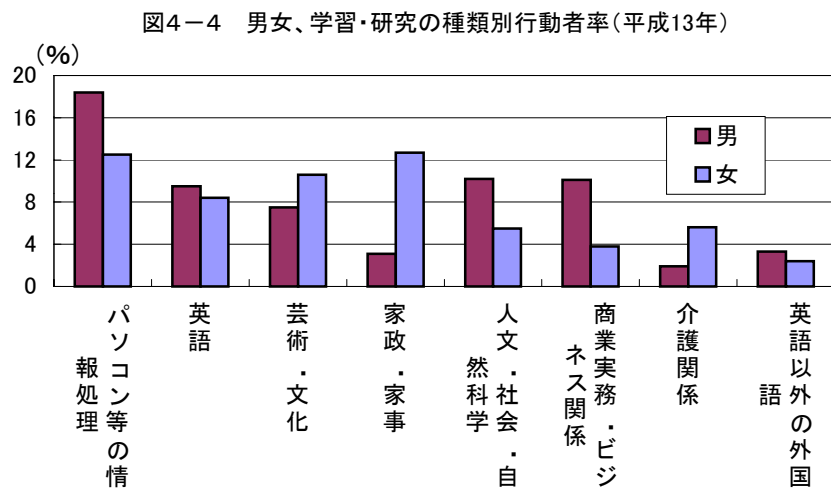
「学習・研究」を行った人をその種類別にみると、「パソコン等の情報処理」が 678 千人(行動者率 15.3%)で最も多く、次いで、「芸術・文化」が 405 千人(9.1%)、「英語」が 396 千人(8.9%)、「家政・家事(料理・裁縫・家庭経営等)」が 364 千人(8.2%)となっている

また、1年間の平均行動日数を「学習・研究」の種類別にみると「人文・社会・自然科学(歴史・経済・数学・生物等)」が 97.5 日で最も多く、次いで「英語」が 97.2 日、「家政・家事」が 89.7 日となっている。(図4-3)



(4) 「パソコン等の情報処理」は男性、「家政・家事」は女性が高い行動者率

「学習・研究」を行った人を男女別にみると、男性は、「パソコン等の情報処理」が387千人(行動者率 18.4%)と最も多く、次いで、「人文・社会・自然科学」が215千人(10.2%)、「商業実務・ビジネス関係」が211千人(10.1%)となっている。一方、女性は、「家政・家事」が298千人(12.7%)と最も多く、次いで、「パソコン等の情報処理」が291千人(12.5%)、「芸術・文化」が248千人(10.6%)となっている。(図4-4)



(5) 若年層で行動者率の高い「英語」、青壮年層で高い「パソコン等の情報処理」

「学習・研究」の行動者率を年齢階級別にみると、男性は、15～24歳では、「英語」が最も高く、次いで、「パソコン等の情報処理」、「人文・社会・自然科学」、25～54歳では、「パソコン等の情報処理」、「商業実務・ビジネス関係」、「人文・社会・自然科学」の順となっている。55～64歳では、「パソコン等の情報処理」、「人文・社会・自然科学」、「商業実務・ビジネス関係」の順、65～74歳は、「芸術・文化」、「パソコン等の情報処理」、「人文・社会・自然科学」の順、75歳以上では、「芸術・文化」、「人文・社会・自然科学」、「家政・家事」の順となっている。

一方、女性は、15～24歳では、「英語」が最も高く、次いで、「パソコン等の情報処理」、「家政・家事」、25～54歳では、「パソコン等の情報処理」、「家政・家事」、「芸術・文化」の順となっている。55～64歳では、「家政・家事」、「芸術・文化」、「パソコン等の情報処理」の順、65～74歳では、「芸術・文化」、「家政・家事」、「介護関係」の順、75歳以上は、「家政・家事」、「芸術・文化」、「介護関係」の順となっている。(表4-1)

表4-1 年齢階級、「学習・研究」の種類別行動者率の順位

男	1位	2位	3位	4位	5位
15～24歳	英語	パソコン等の情報処理	人文・社会・自然科学	芸術・文化	英語以外の外国語
25～34歳	パソコン等の情報処理	商業実務・ビジネス関係	人文・社会・自然科学	芸術・文化	英語
35～44歳	パソコン等の情報処理	商業実務・ビジネス関係	人文・社会・自然科学	英語	芸術・文化
45～54歳	パソコン等の情報処理	商業実務・ビジネス関係	人文・社会・自然科学	芸術・文化	英語
55～64歳	パソコン等の情報処理	人文・社会・自然科学	商業実務・ビジネス関係	英語	芸術・文化
65～74歳	芸術・文化	パソコン等の情報処理 人文・社会・自然科学		商業実務・ビジネス関係	介護関係
75歳以上	芸術・文化	人文・社会・自然科学	家政・家事	パソコン等の情報処理 商業実務・ビジネス関係	

女	1位	2位	3位	4位	5位
15～24歳	英語	パソコン等の情報処理	家政・家事	芸術・文化	人文・社会・自然科学
25～34歳	パソコン等の情報処理	家政・家事	芸術・文化	英語	介護関係
35～44歳	パソコン等の情報処理	家政・家事	芸術・文化	英語	商業実務・ビジネス関係
45～54歳	パソコン等の情報処理	家政・家事	芸術・文化	介護関係	英語
55～64歳	家政・家事	芸術・文化	パソコン等の情報処理	介護関係	人文・社会・自然科学
65～74歳	芸術・文化	家政・家事	介護関係	パソコン等の情報処理	人文・社会・自然科学
75歳以上	家政・家事	芸術・文化	介護関係	英語	商業実務・ビジネス関係

5 スポーツ

(1) 1年間に「スポーツ」を行った人は3,165千人、行動者率は71.3%

過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った人は3,165千人で、10歳以上人口に占める割合(行動者率)は71.3%となっている。行動者率を平成8年と比べると3.6ポイント低下している。

行動者率を男女別にみると、男性は78.4%(行動者数1,643千人)、女性は65.1%(1,522

千人)で、男性が女性より高くなっている。これを平成 8 年と比較すると、男性は 3.5 ポイント、女性は 3.4 ポイント、それぞれ低下している。

(2) 15～24 歳、45～54 歳で「スポーツ」の行動者率が大きく低下、55～74 歳でわずかに上昇

「スポーツ」の行動者率を年齢階級別にみると、25～34 歳が 79.8% で最も高くなっており、年齢が高くなるに従っておおむね低下している。これを平成 8 年と比較すると 25～34 歳、55～74 歳は高いが、それ以外の年齢層は低下している。特に、45～54 歳の年齢階級での低下幅が大きくなっている。(図 5 - 1)

また、男女別にみると、25～34 歳を除くすべての年齢階級で男性が女性より高くなっており、45～54 歳での開きが最も大きい。(図 5 - 2)

図5-1 年齢階級別、「スポーツ」の行動者率—平成8年,13年

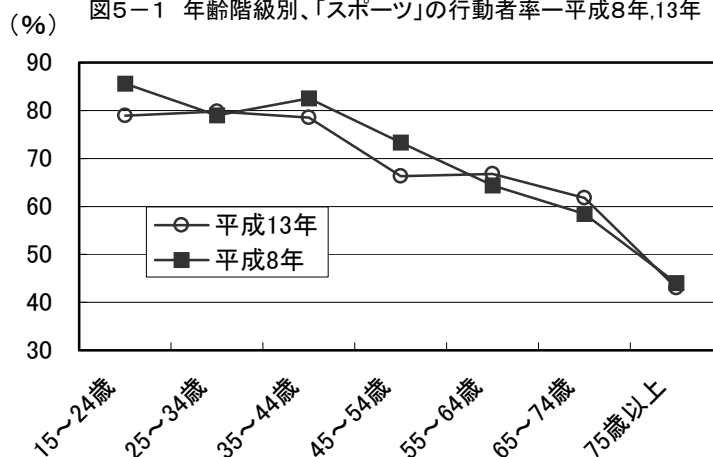
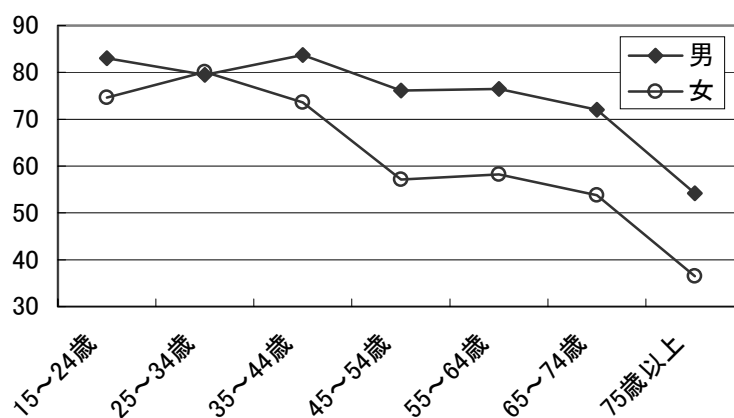


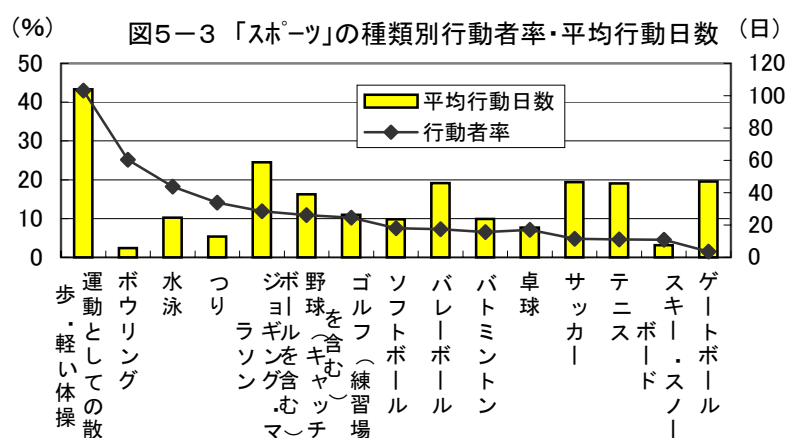
図5-2 男女、年齢階級別「スポーツ」の行動者率



(3) 行動者率が高く、平均行動日数も多い「運動としての散歩・軽い体操」

「スポーツ」を行った人をその種類別にみると、「運動としての散歩・軽い体操」が1,908千人(行動者率43.0%)と最も多く、次いで、「ボウリング」が1,116千人(25.2%)、「水泳」が806千人(18.2%)となっている。

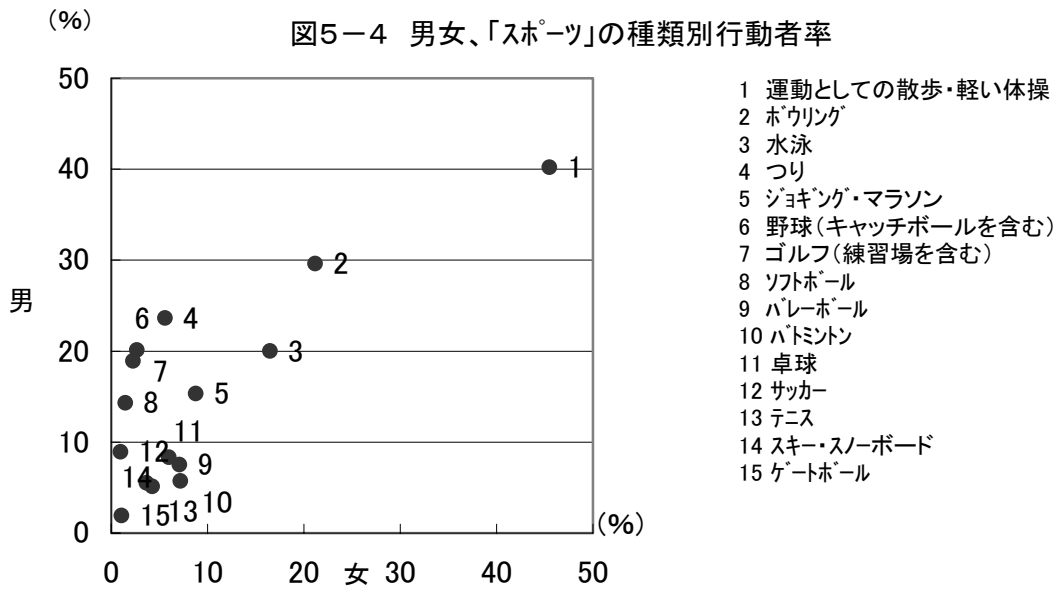
また、1年間の平均行動日数を「スポーツ」の種類別にみると、「運動としての散歩・軽い体操」が103.9日と最も多く、次いで、「ジョギング・マラソン」が58.9日、「サッカー」が46.6日となっている。(図5-3)



(4) 男性は「つり」と屋外球技、女性は「運動としての散歩・軽い体操」など

「スポーツ」の行動者率を男女別にみると、ほとんどの種類で男性が女性より高くなっている。男性が女性より高くなっているものは、差が大きい順に「つり」、「野球(キャッチボールを含む)」、「ゴルフ(練習場を含む)」、「ソフトボール」、「ボウリング」などとなっている。

一方、女性が男性より高くなっているものは、差が大きい順に「運動としての散歩・軽い体操」、「バドミントン」となっている。(図5-4)



(5) 15～24歳は「ボウリング」、25歳以上では「運動としての散歩・軽い体操」の行動者率が最も高い

「スポーツ」の行動者率を年齢階級別にみると、15～24歳は、「ボウリング」が最も高く、次いで、「運動としての散歩・軽い体操」、「水泳」などとなっている。25～34歳は、「ボウリング」及び「運動としての散歩・軽い体操」が同率で最も高く、次いで、「水泳」の順となっている。35歳以上では、すべての年齢階級で「運動としての散歩・軽い体操」の行動者率が高くなっているが、2番目以降に高い種類は年齢によって異なり、35～54歳は「ボウリング」、55～64歳は「ゴルフ」、65～74歳は「つり」、75歳以上は「ゲートボール」となっている。(表5-1)

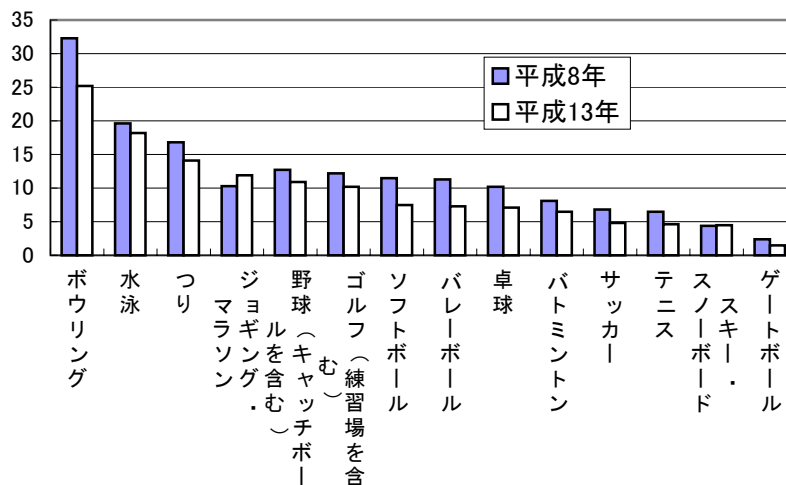
表5-1 年齢階級、「スポーツ」の種類別行動者率の順位

	1位	2位	3位	4位	5位
15～24歳	ボウリング	運動としての散歩・軽い体操	水泳	野球(キャッチボールを含む)	ジョギング・マラソン
25～34歳	ボウリング 運動としての散歩・軽い体操	——	水泳	つり	野球(キャッチボールを含む)
35～44歳	運動としての散歩・軽い体操	ボウリング	水泳	つり 野球(キャッチボールを含む)	——
45～54歳	運動としての散歩・軽い体操	ボウリング	ゴルフ(練習場を含む)	つり	ジョギング・マラソン
55～64歳	運動としての散歩・軽い体操	ゴルフ(練習場を含む)	つり	ジョギング・マラソン	ボウリング
65～74歳	運動としての散歩・軽い体操	つり	ゴルフ(練習場を含む)	水泳	ジョギング・マラソン
75歳以上	運動としての散歩・軽い体操	ゲートボール	つり	ゴルフ(練習場を含む)	水泳 ジョギング・マラソン

(6) 行動者率が上昇した「ジョギング・マラソン」、低下した「ボウリング」、「ソフトボール」、「バレーボール」

平成8年と比較可能な「スポーツ」の種類について行動者率をみると、平成8年と比べ上昇したものは「ジョギング・マラソン」(1.6ポイント)、「スキー・スノーボード」(0.1ポイント)となっており、逆に低下したものは、低下幅の大きい順に「ボウリング」(7.1ポイント)、「ソフトボール」(4.0ポイント)、「バレーボール」(4.0ポイント)、「卓球」(3.1ポイント)などとなっている。(図5-5)

(%) 図5-5 「スポーツ」の種類別行動者率—平成8年、13年



6 趣味・娯楽

(1) 1年間に「趣味・娯楽」を行った人は3,881千人、行動者率は87.5%

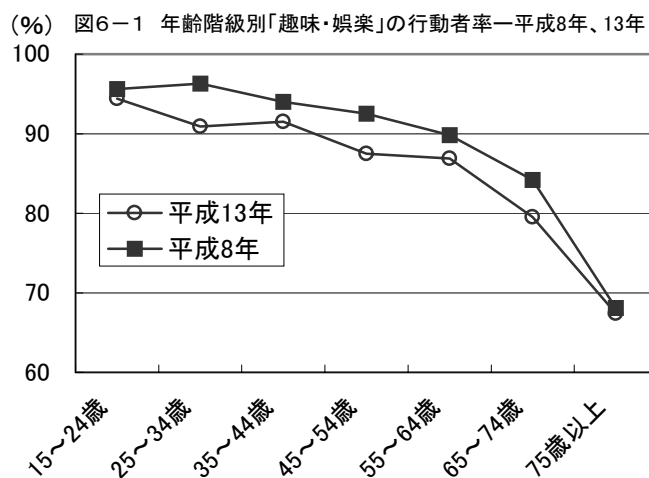
過去1年間になんらかの「趣味・娯楽」を行った人は3,881千人で、10歳以上人口に占める割合(行動者率)は87.5%となっている。行動者率を平成8年と比較すると4.0ポイント低下している。

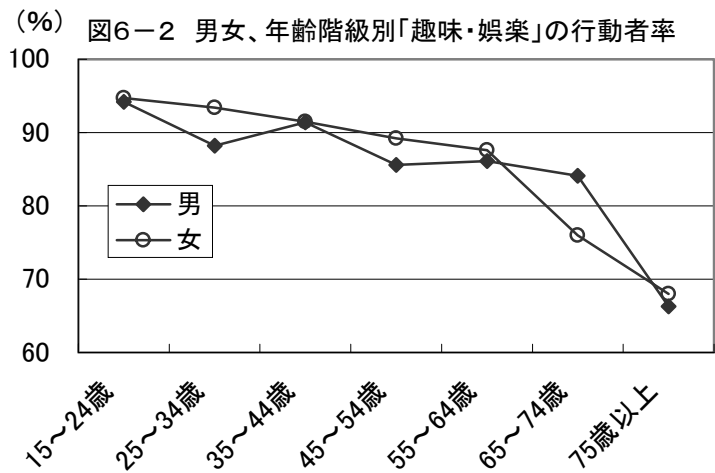
行動者率を男女別にみると、男性は87.5%(行動者数1,835千人)、女性は87.5%(2,046千人)で、男女同率となっている。これを平成8年と比較すると、男性は5.0ポイント、女性は3.2ポイント、それぞれ低下している。

(2) すべての年齢階級で「趣味・娯楽」の行動者率が低下

「趣味・娯楽」の行動者率を年齢階級別にみると、若年層で高くなっており、年齢が高くなるに従って低下している。これを平成8年と比較すると、すべての年齢階級で低下している。(図6-1)

また、男女別にみると、65～74歳を除くすべての年齢階級で女性の方が高くなっている。(図6-2)

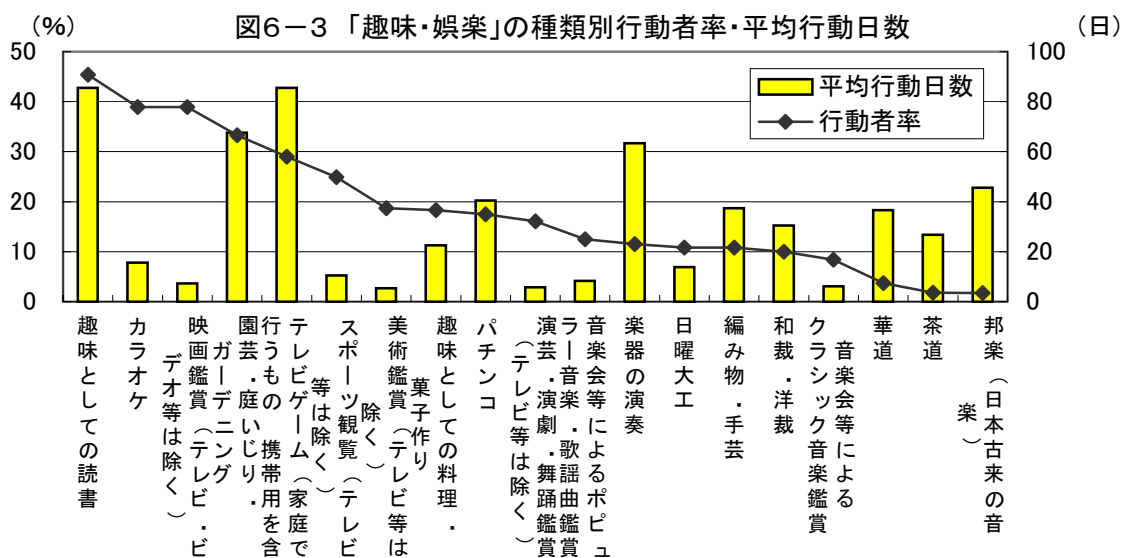




(3) 行動者率が高い「趣味としての読書」、平均行動者日数が多い「趣味としての読書」と「テレビゲーム」

「趣味・娯楽」を行った人をその種類別にみると、「趣味としての読書」が2,013千人(行動者率 45.4%)と最も多く、次いで、「映画鑑賞(テレビ・ビデオ等は除く)」が1,727千人(行動者率 38.9%)、「カラオケ」が1,724千人(行動者率 38.9%)、「園芸・庭いじり・ガーデニング」が1,475千人(行動者率 33.3%)となっている。

また、1年間の平均行動日数を「趣味・娯楽」の種類別にみると、「趣味としての読書」、「テレビゲーム」が85.5日と最も多く、「園芸・庭いじり・ガーデニング」67.6日、「楽器の演奏」が63.4日となっている。(図6-3)

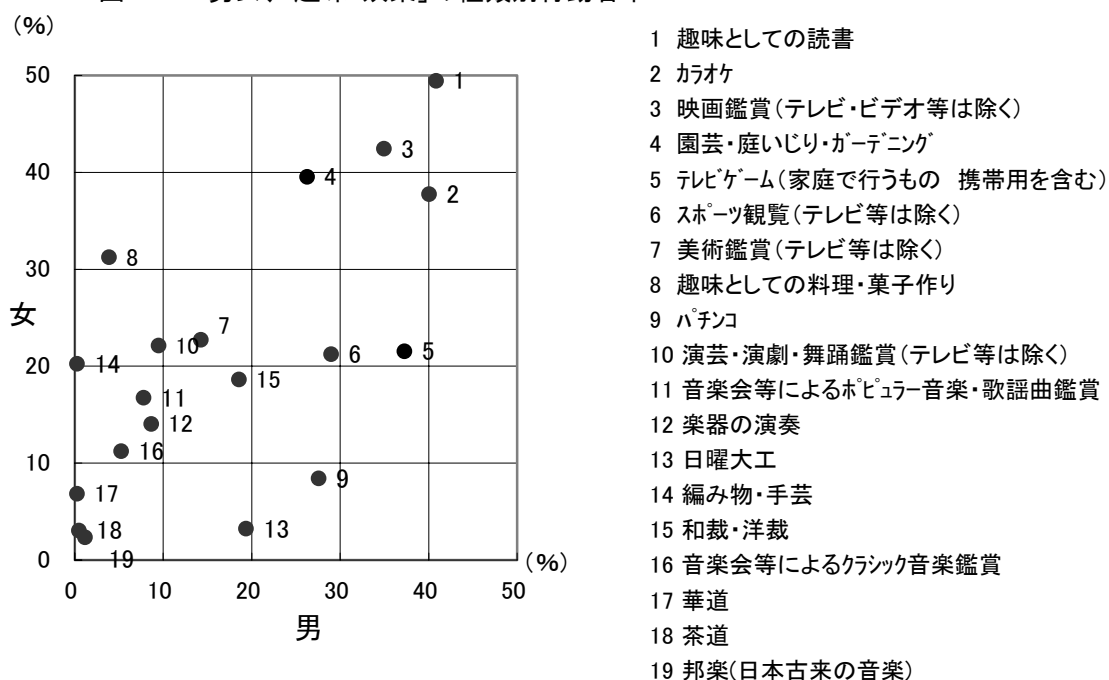


(4) 男性は「パチンコ」、「日曜大工」、女性は「趣味としての料理・菓子作り」と「編み物・手芸」

「趣味・娯楽」の行動者率を男女別にみると、種類によりその差に違いがみられる。男性が女性より高くなっているものは、差が大きい順に「パチンコ」、「日曜大工」、「テレビゲーム」、「スポーツ観覧(テレビ等は除く)」、「カラオケ」となっている。

一方、女性が男性より高くなっているものは、差が大きい順に「趣味としての料理・菓子づくり」、「編み物・手芸」、「和裁・洋裁」、「園芸・庭いじり・ガーデニング」、「演芸・演劇・舞踊鑑賞(テレビ等は除く)」などとなっている。(図6-4)

図6-4 男女、「趣味・娯楽」の種類別行動者率



(5) 15～24歳では「カラオケ」、55歳以上では「園芸・庭いじり・ガーデニング」の行動者率が最も高い。

「趣味・娯楽」の行動者率を年齢階級別にみると、15～24歳では、「カラオケ」が最も高く、次いで、「映画鑑賞」、「テレビゲーム」の順となっている。25～34歳では、「映画鑑賞」、「カラオケ」、「趣味としての読書」の順、35～54歳では「趣味としての読書」がともに1位、55～75歳以上では、「園芸・庭いじり・ガーデニング」、「趣味としての読書」の順となっている。(表6-1)

(6) 行動者率が上昇した「映画鑑賞」、「趣味としての読書」など

平成8年と比較可能な「趣味・娯楽」の種類について行動者率をみると、ほとんどの種類で平成8年に比べ上昇しており、上昇幅の大きい順に「映画鑑賞」(12.8ポイント)、「趣味としての読書」(8.9ポイント)、「テレビゲーム」(2.4ポイント)などとなっている。

逆に行動者率が低下したものは、低下幅の大きい順に「カラオケ」(5.9ポイント)、「パチンコ」(2.8ポイント)、「スポーツ観覧」(2.7ポイント)などとなっている。(図6-5)

表6-1 年齢階級、「趣味・娯楽」の種類別行動者率の順位

	1位	2位	3位	4位	5位
15～24歳	カラオケ	映画鑑賞	テレビゲーム (家庭で行うもの 携帯用を含む)	趣味としての読書	スポーツ観覧 (テレビ等は除く)
25～34歳	映画鑑賞	カラオケ	趣味としての読書	テレビゲーム (家庭で行うもの 携帯用を含む)	スポーツ観覧 (テレビ等は除く)
35～44歳	趣味としての読書	映画鑑賞	カラオケ	スポーツ観覧 (テレビ等は除く)	テレビゲーム (家庭で行うもの 携帯用を含む)
45～54歳	趣味としての読書	園芸・庭いじり・ ガーデニング	カラオケ	映画鑑賞	スポーツ観覧 (テレビ等は除く)
55～64歳	園芸・庭いじり・ ガーデニング	趣味としての読書	カラオケ	スポーツ観覧 (テレビ等は除く)	演芸・演劇・舞踊鑑賞 (テレビ等は除く)
65～74歳	園芸・庭いじり・ ガーデニング	趣味としての読書	美術鑑賞	カラオケ	演芸・演劇・舞踊鑑賞 (テレビ等は除く)
75歳以上	園芸・庭いじり・ ガーデニング	趣味としての読書	演芸・演劇・舞踊鑑賞 (テレビ等は除く)	和裁・洋裁	美術鑑賞

図6-5 「趣味・娯楽」の種類別行動者率—平成8年、13年

